

大会宣言 (案)

本日、JR東日本輸送サービス労働組合は、赤羽会館において第7回定期大会を開催した。また同日、新幹線地方本部を結成した。そして、6地本で輸送サービス労組運動への「共感」から“すべての仲間”の真実の声に基づく「共創」による日常活動を通じて、輸送サービス労組の強化と拡大を実現させることを確認した。

脱退パワハラ訴訟は東京高裁で判決が確定した。会社による組織的な不当労働行為は認められなかったものの、第一審判決で認められた3点【①管理者2名の行為は脱退勧奨の不当労働行為であった ②会社としての使用者責任が認められ、損害賠償が認められた ③同時期に各地の職場で脱退勧奨が行われた可能性は高い】は堅持された。4名の仲間と共にたたかいをつくり出し、あったことをなかったことにさせなかった「脱退パワハラ訴訟勝利」を全組合員で確認しよう。一方で、水戸地本が実施した「ジョブローテーション及び職場実態調査アンケート」に対して、水戸支社は今もなお組合員に対する事情聴取・処分を行っている。今、輸送サービス労組運動の生命線である職場活動の規制が各地で相次いでいるが、企業内労働組合である以上、活動は職場で日常的に発生する。それは団結権で保障された権利であり、JR東日本による権利侵害は不当労働行為であり認められない。統括センター化による不利益変更を許さず、10月の「労使間の取扱いに関する協約」の改訂に向けて議論を深めよう。

2024年度賃金のベースアップの取り組みは、会社が新賃金と夏季手当の同時検討を行い、回答水準を抑え込もうとする中でのたたかいであった。輸送サービス労組は会社の狙いを暴き、組合員と賃金学習を行うなど一丸となりたたかいを積み上げた結果、3月8日に16,973円(5.01%)の賃金引上げと夏季手当2.7ヶ月の回答が示された。この数字は過去最高水準であるが、私たちの掲げた『全社員の基本給一律3,000円+基本給の定率5%』そして、現場で汗し好調な業績をつくり出してきた期待からすると程遠い数字である。株主配当や役員報酬が上がる中で、ステークホルダーたる私たちへの還元のみが置き去りにされた回答であることから、夏季手当の補給を求めて申36・37号の団体交渉を開催し、組合員の怒りや不満、悲痛な声を訴えてきた。しかし会社は「補給する考えはない」と回答した。現場で奮闘する労働者を蔑ろにし、還元を行わない経営姿勢は容認できない。現在、融合と連携や統括センター化などによって、労働の複務化が進められている。正当な評価と還元を求め、堂々と年末手当に向けた議論を職場からつくり出していこう。

2月24日、横浜線中山駅で協力会社作業員の墜落死亡事故が発生し、昨年之感電死亡事故に続き、三大労災で尊い命が失われた。全系統で事故・事象が相次いでいるが、会社は「決められたルールを守らなかった」と個人の責任に切り縮め、背後要因すら明らかにしない。これでは原因究明・対策の実施に至らず、依然としてJR東日本の安全は危機的状況だ。グループ会社も含めて安全に作業ができる環境を整備していくことはJR東日本の責任である。「新たなジョブローテーション」施策は、実態調査中間報告が明らかにしたように、安全性の低下をはじめ多くの問題をはらむ人事・要員施策であり、直ちに撤廃するべきだ。

効率化ありきの施策が矢継ぎ早に実施された結果、利用者を置き去りにした『みどりの窓口』の閉鎖や京葉線における快速列車の本数削減は批判の声が相次ぎ、凍結・見直しが発表される異例の事態になっている。7月4日、突如として夏季繁忙期の販売期間における「みどりの窓口」の臨時窓口開設や、窓口数の増設が発表された。常態化する要員不足を改善することなく、現場に新たな負担を押し付け、施策の失敗を覆い隠し、弥縫策を繰り返す経営姿勢は認められない。また、ワンマン運転の拡大や統括センター化などが進められる中、鉄道業として守らなければならない「安全」「専門性」「サービスレベル」など、現場軽視の施策に組合員は不安を抱えている。加えて、社内報においては社会からも批判される記事が掲載されるなど、倫理観すら欠如した人材と職場がつくり出されている。私たちは経営の進むべき道をチェックし、施策の検証を取り組み、誰もが安心して利用できる鉄道と地域や社会から信頼されるJR東日本を取り戻そう。

結成から5年目の節目である今、輸送サービス労組運動への共感は確実に広まっている。「輸送サービス労組未来ビジョン」の実現に向けて、JR東日本のあるべき姿を一人ひとりが明確にし、地域や利用者、JTSU議員懇談会との連帯をさらに強化しよう。そして、誰もが安心して働き続けられるJR東日本グループを実現するために、輸送サービス労組運動を大きく着実に前進させ組織強化・拡大を実現しよう！

以上、宣言する。

2024年7月7日
JR東日本輸送サービス労働組合
第7回定期大会